

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000111	事業の開始年月日	平成19年4月1日	
		指定年月日	平成19年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ戸塚			
所在地	( 〒244-0003 ) 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町167-29			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成24年12月5日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能型のメリットを發揮し、通いを中心にお泊まりを入れて馴染みの関係作りをしている。</li> <li>・認知症の介護に力を入れており、事例研究や職員の発表をとおしてスキルアップを図っている。スタッフは明るく離職する人がいない。また、チームワークが良くスタッフ間の情報共有ができています。</li> <li>・優しい利用者様本位の介護ができており、明るい雰囲気のある事業所で、家族や馴染みの方、地域の方が来訪しやすい環境作りに努めている。</li> </ul>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年12月22日	評価機関 評価決定日	平成25年1月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇秋祭りなど事業所の行事には、利用者・家族の他近隣の幼稚園児や小学生、ボランティアにも参加してもらい、また、地域の行事にはも利用者と職員が参加して、地域との交流に努めている。                  ◇看護師である管理者と看護師の職員を中心に、24時間の支援体制を整備し、職員・家族・医師の協力を得て、重度化した場合や終末期のケアに取り組んでいる。                  ◇「全国小規模多機能居宅介護連絡会」に加入し、横浜市の『認知症実践研修』と「リーダー養成研修」施設の指定を受けて、管理者が講師として地域に貢献すると共に職員の教育に力を注いでいる。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇毎朝の「30分研修」を今年度の重点課題として取組み、会議を通じて申し送り事項に落ち度がないよう職員間で話し合っって実行につなげている。                  ◇一日の予定を職員一人で行き届ける「日替わりリーダー制」を取り入れて、職員のレベルアップと職員間の協力体制の構築を図っている。                  ◇リハビリ機器による体力の維持・向上を利用者に取り入れると共に、来訪する家族にも、その効果を説明して体験してもらっている</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ戸塚
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	戸塚の理念として、「笑顔で家庭的な介護を目指します」を月1回の合同朝会に唱和している。スタッフはいつも念頭において、実践している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の理念と事業所のスローガンを事務室に掲げている。</li> <li>・職員は、毎月のミーティングで理念を唱和して意識化を図ることで、理念の実践に努めている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の運動会や幼稚園のバザーに職員、利用者共に参加し地域の情報を提供している。秋祭りを開催し近所の方を招いたり、年2回の避難訓練にも相互に協力している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事に積極的に参加し、地域の一員として情報交換をしている。</li> <li>・地域ケアプラザと連携して、地域住民への認知症の相談にも応じている。</li> </ul>	開所当時からの希望である自治会への加入の申し出を、継続していかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回家族会を開いたり、運営推進会議などで認知症の特徴や対応方法を具体例を共有し合う。その後スタッフにも共有の場を設ける。年に1回の市の「介護の集い」に参加し、地域の方に向け「認知症について」説明を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においてサービスの公平さ、個別対応の実例をあげている。又事業所の雰囲気やスタッフの介護力、態度について評価して頂いている。毎回スタッフが利用者に関わった例を「ちょっといい話」風にあげている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター職員・家族・老人会会長・民生委員が参加し、2か月ごとに開催している。</li> <li>・会議では、事業所の現状報告の後、参加者からの意見や提案を伺い、運営に反映しサービスの向上に活かしている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区からの連絡会に積極的に参加、ケアマネットへの参加、区の行事にも参加しお互いに協力、連絡を取り合っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所へは、月数回出向むき、担当者や情報交換している。</li> <li>・地域包括支援センターから入所者の紹介が多く、区内の他の事業所と連携して対応している。</li> <li>・市のリーダー研修に会場を提供し、講師を引き受けている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、スタッフに正しく理解してもらうよう努めている。帰宅願望の利用者様に対しても、スタッフの見守り強化、気持ちをそらす工夫などを行ない、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。	・毎月1回研修を行い、管理者・職員とも身体拘束の弊害を理解し、意識化に努めている。 ・利用者への言葉使いにも職員間で注意を払っている。 ・玄関は日中開錠して見守りに努め夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じく研修を行い、正しく理解してもらうよう努めている。来所時、入浴時に身体面の観察を行ない、早期発見に努めている。表情もいつもと違う時は報告をする様、教育している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を、地区センターの勉強会に参加し情報収集し、関係事業所と話し合いを持っている。社会福祉協会の成年後見制度の前の段階についても、説明を受け連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、又は改訂等の際は本人や家族等と話し合いをする場をもうけ、十分に理解、納得を得たうえで行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情窓口を設置している。入れ物と用紙をわかりやすい目につく場所に置いている。今のところ入った事はないが、しかし家族の要望を出しやすく話しやすい雰囲気作りを常に心掛けている。	・運営推進会議や送迎時の家族や利用者との会話の中から、要望や意向を把握するよう努めている。 ・提出された意見や要望は、職員会議で検討し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に話しやすい態度で接している。毎朝のスタッフミーティングで職員との意見交換している。	・管理者は「スタッフ改善会議」を毎月開催し、また、朝の申し送りの機会に職員の意見や提案を出して貰い、その都度検討して運営に反映している。 ・直近では、入浴順を利用者の状況に応じて決めた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、余件の整備に常に目配りして状況の把握に努めている。各自が向上心を持てる様、褒めたり励ましたりしている。職員に対しての挨拶や労いの言葉を日々発している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材教育に力を入れている当社には研修センターが隣接されており、月一度回覧される研修の内容から、スタッフの力量に合わせた研修を選び、参加させている。スタッフが習得できる資格の情報提供も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者会議などを通じて他事業所の関係者とも積極的に交流を持ち、情報交換をし、良い所を吸収し、サービスの向上に役立っている。以前、他事業所との交換研修を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人の要望等を聞き出し、それに向けて支援していくことを伝えながら関係作りに努め、信頼関係を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の段階で家族の要望、困っていることを聞き、それに向けて支援していくことを伝え、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期において今、なにが必要なサービスかを見極め、様々な分野も考慮しながら対応に努めている。優先順位を本人と家族と話し合いながら決めていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野を尊重し、潜在意識をうまくすくい出せるよう、教えてもらう姿勢を常に表現している。親身になってケアを行っている。年の功というものを常に念頭に置き、プライドや自尊心を尊重している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族においても、本人にとっても無くてはならない存在を位置づけにして介護にも積極的に参加して、共に支え合っている事を伝える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人との触れ合いを大事にし、送迎時の乗り降り時、本人のいつもの場所、人とも挨拶や声かけを行なっている。以前利用していたヘルパーさんや民生委員、遠くに住むご家族など、面会に来られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊まりの利用者家族や知人が自由に訪問し、居室で一緒に歓談できるように配慮している。</li> <li>送迎時には、近所の方との挨拶や立ち話を大切にし、従来との関係の継続を支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を見極め、利用者同士が話しが出来るよう席順や位置に気を配っている。趣味や好みの合う人やグループでの活動を取り入れている。毎日レクリエーションを行い、利用者同士が関わりを持てる環境がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても連絡を取り、相談や状況把握に努め、本人家族にとって最良であるため支援している。利用が終了になったあとも、ご家族が訪ねに来られている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、対応しながら本人の希望、意向を把握している。そのことが困難な場合は本人にとって何が一番良いかを常に考慮しながら支援している。出来る事から少しずつ支援していくことを伝えている。	・職員は利用者の日常の会話から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。 ・意思疎通が困難な場合は、家族からの情報や本人の表情や仕草から意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどの様にくら暮らしをしてきたのか本人、家族、ケアマネに聞きながら生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らし方、出来る事出来ない事、現状の把握に努めている。日勤スタッフや夜勤帯スタッフからも情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり本人、家族関係者と話し合い、相談しながら意見交換している。現状に合った計画を作成している。	・利用者本人や家族の要望を聞き、関係者と相談しながら介護計画を作成している。 ・3か月ごとの定期モニタリングで見直しているが、利用者の状況変化や家族の意向によっては、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアを実践した時の気づき、発見、工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。 常にスタッフミーティングをかかささない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況の変化に応じた対応を行なっている。利用日でない日も臨機応変に対応したり、利用日の追加、利用日の変更、急な来訪や急な宿泊希望、配食サービスなどにも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察の見回り、消防署より年二回の防災訓練実施、保育園、小学校との交流も持っている。地域の人や、民生委員さんとも交流の場をもち、情報提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院との連絡会出席、必要に応じてかかりつけ医の受診同行も行なうようにしている。医師にミモザでの状況を伝えられる機会をなるべく作るようにしている。	・利用者の希望を大切にし、全員がかかりつけ医を受診しており、職員は利用者の医療機関に同行し状況把握に努めている。 ・2か月に一回連携病院との連絡会を持ち情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者と看護師が兼務の為気づき、スタッフとも情報提供し合い、適切な処置や受診につなげる事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、状態把握をし、情報交換に努めている。早期退院に向けてもケースワーカーとの連絡を密に取りあっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて家族と常に現状把握に努めている。今後の方針や病院との連携もチームとして支援していくことを伝えている。又、施設とも連携をとり合い常に状態の変化を伝えている。	・入所時に重度化や終末期への事業所の方針を家族に説明し了解を得ている。これまでの看取りでは、医療機関・家族・管理者と方針を共有して支援した事例がある。	事業所の看取りの方針を家族に、口頭で説明されていますが、今後文書化されることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて研修を行ない応急法、訓練を全スタッフが身につけている。又忘れない様に定期的に応急処置の方法を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に避難出来る様避難訓練を年二回行なっている。全スタッフが二回のうち必ず一回は参加出来る様調整している。	・消防署立会いのもと年2回避難訓練を行っており、内1回は夜間を想定して訓練している ・災害時の職員の役割分担を決め、防災器具の使い方も熟知している。 ・災害用の備蓄は、3日分の飲料水・非常食・毛布・トイレ等がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様という意識を常に持ち、人格を尊重し接遇についての研修も行なっている。言葉遣いや態度も見直す機会を持つ様指導している。適切でない光景を見かけた場合、その場で指導するようにしている。	・職員の採用時に、利用者への言葉使いや接遇の説明をし、日常業務では、リーダーがOJTで指導している。 ・個人情報を含む書類は、キャビネットに施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中など本人の言葉にも注意を払い、思いや希望を表現できる様うながしたり、雰囲気作りにも気を使っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人や家族の思いや希望を受け止め、一日の流れをその人のペースに合わせてスタッフや家族と話し合い決定し、承認して進めていく。その日の心身状況に合わせてその方に合わせた個々の対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に行きつけの理、美容室に行ける人は家族対応で、その他の人はスタッフに美容師がいるのでカット、髭剃り、毛染め等を行なっている。その他ハンドマッサージやフットケア等の要望に合わせた対応をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうに見える様見た目、味付け、食べやすさ、献立を考え一人ひとりの好みに合うようスタッフの検査表の記入などを参考にしている。又、食前にテーブルを拭いて頂いたり、食後に下膳のお手伝いなどを一緒にこなしている。	・業者からのレシピ付食材を、職員が調理し、利用者の好みには食材を変更して対応している。職員も一緒に同じものを食べている。 ・出前を楽しむこともあり、特別食にバイキングを企画している。 ・利用者はテーブル拭きなどを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算の元、バランスのとれた食事を提供している。水分を取るのをためらう方もいるので、水分補給を促したり水分補給の大切さを伝えている。水分制御の人の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の歯磨きを促し、介助が必要な方には個別対応してその人の力に応じた口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の排泄の誘導（来所時・レク後・昼食前・後・入浴前・帰宅前）個々の習慣や家族の要望に応じた対応をしている。本人態度や様子を監察して介助に入らせて頂いたり、なるべく手を出さずに自立に向けた支援を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表で排泄パターンを把握して、又表情や態度で判断して、トイレでの排泄を支援している。</li> <li>・出来るだけ家庭での習慣を活かして、自立に向けた支援を行っている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として水分や食事の内容に工夫したりリズム体操等取り入れスムーズな便通を促す様支援している。便通をよくする内服薬を処方している方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前からとなっているが、個人のペースと希望を取り入れている。拒否のある方は時間をかけて無理は避けるようにしていき、本人の状態と納得されてからお誘いすると抵抗がなくなった事例がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常は週2回の入浴であるが、希望があればいつでも対応している。入浴を好まれない方には無理強いせずに見守り、清拭で対応することもある。</li> <li>・好みにより入浴剤を入れ、季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は昼食後にとって頂いているが、熟睡される方もいらっしゃる。昼夜逆転しない様個々の生活習慣や睡眠状態をその都度家族や本人から聞き取り休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、内服している処方箋を個人ファイルに添付し、目的、副作用について理解できる様説明すると共に、服薬支援、個別包装も行なっている。朝昼夕寝る前と手渡し確認するまでの服薬管理もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や家族から趣味や生活歴の情報を収集して一人一人の才能や技術を呼び起こし、自信を付けられる様に支援している。将棋やおセロ、パワリハ、カラオケなどが目的で来られている方もいる。四季に合わせたレクもしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化や四季折々の環境を体験できる様外出支援を行なっている。四月には柏尾川にお花見をし、おやつと飲み物を持参して車椅子の方も全員参加する事が出来ました。宿泊している方は気分転換に散歩に出かけたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日は、事業所の花壇を見、近辺を散歩している。</li> <li>・送迎の途中に少し遠回りをして、春は花見をしたり、車イスの方も一緒にピクニックに行っている。秋には紅葉狩りを楽しんだ。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を持参している方もいる。家族も承認している為、近所への買い物や外出時、ミモザに来るヤクルト販売やパン販売で使う楽しみ、選ぶ喜びを得て頂いている。金銭管理の能力にも合わせた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている利用者様に、番号を押したり一緒に取り次いだりして、相手との交流の手助けをしている。本人がご家族に連絡をとりたいといった場合なども支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	知人や友人、家族等が突然気兼ねなく訪問したり出来るような開放的な環境づくりに努めている。共用の空間は毎日掃除機、床拭き、消毒を行ない換気やにおいにも気配りをしている。観葉植物や季節の花など飾っている。	・リビングは明るく開放的であり、清掃が行届き臭気もない。床暖房と加湿器で快適な温・湿度に調整している。 ・壁面に利用者と職員が協力して作成した貼り絵やちぎり絵を貼って季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の要望に合わせた空間づくりを行なっている。隣接されたスペースについて立て図書コーナーやドリンクコーナーを設けている。個室もあり体調などに応じて、独りになれる空間もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には本人が持参される物（テレビ、加湿器、人形、布団、本）などが置かれている。使い慣れた物、安心出来る物を自由に持ちこめる様支援している。	・天窓のある居室が3室あり、夏は星空が見られ、各居室には復古調の家具を配置し、寛げる雰囲気を工夫している。 ・泊りの利用者は、使い慣れた物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	パワリハ、レクリエーション、体操、習字、絵手紙、それぞれが好みに合わせて参加できる様声かけ等を行なっている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ戸塚

作成日

平成25年1月21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・事業所と地域との連携がとれ協力し合う関係を持ちたい。町内会加入が出来ない。	・自治会へ御加入が出来るようになる。	・町内会での掃除や行事などの参加を積極的に行う。	6か月
2	32	・医療行為が必要となって退院した場合の対応の仕方。	・あわてることなく、きちんと指導を受けてスタッフ全員が出来るようになる。	・医療の専門分野における研修や勉強会を行い、スタッフで共有する。	3か月
3	33	・看取の方針を家族に現在は口頭で説明しているが、今後は文書化に変えて行く。	・事業所での看取の方針を文書化し明確に説明できるようになる。	・個別対応の看取の方針を家族に具体的に説明できる様に文書化する。	3か月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。